

2024年度

武蔵野高等学校

一般入試

学力試験問題

国語

注意

1. 試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
2. 試験時間は40分です。
3. 解答はすべて解答用紙の定められた欄に記入しなさい。
また、字数制限のある問いに関しては句読点も字数に含みます。
4. 受験番号、氏名を解答用紙の定められた欄に記入しなさい。

受験番号	氏名

一

次の問いに答えなさい。

問一 傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 運命に身をユダ^レねる。 ② 法にのっとってサバ^クく。 ③ ツラ^ナなる峰を写真に撮る。
- ④ 会社のギョウセキ^キが上向く。 ⑤ セイミツ^ツ機器の取り扱いに注意する。

問二 傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ① フルマソンに挑^{チカ}む。 ② 計画は滞^ヒりなく進んでいる。 ③ 室内に甘い芳香^{カウ}が漂う。
- ④ 害虫駆除剤を噴霧^{コン}する。 ⑤ 時代にそぐわない規則を撤廃^{セツ}する。

問三 次の①～③の（ ）の意味になるように、□に入る言葉を漢字一字で答えなさい。

- ① □が知らせる（なんとなく予感がすること）
- ② 身を□にする（一生懸命に働くこと）
- ③ □が折れる（大変な苦勞をすること）

問四 次の①・②と熟語の組み立てが同じものを、あとのア～クの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 動揺 ア 高校 イ 終始 ウ 恩恵 エ 因果 オ 未来 カ 美的 キ 越冬 ク 国営
- ② 頭痛

問五 次の文を文節に分けたものとして最も適切なものを、あとのア～オの中から選び、記号で答えなさい。

○母が買い物に行っている間に部屋のそうじをしておう。

ア 母が／買い物に／行っている間に／部屋のそうじを／しておう。

イ 母が／買い物に／行っている間に／部屋の／そうじを／しておう。

ウ 母が／買い物に／行っている間に／部屋の／そうじを／しておう。

エ 母が／買い物に／行っている間に／部屋の／そうじを／しておう。

オ 母が／買い物に／行っている間に／部屋の／そうじを／しておう。

一一 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「犬」という単語が実際に表すのは、もちろん「犬という動物一般」です。しかし、大人が一匹の犬を指さして「これは犬だよ」と一度言うだけで、子供がそのことを理解するとは限りません。子供はもしかすると、「犬」はこの動物だけにつけ^①られた名前（つまり固有名詞）だ、と思うかもしれません。つまり「ポチ」などといった名前と同じようなものだと思う可能性があります。

これ以外にも、子供が「犬」を「この動物の体の一部だ」と理解する可能性もあります。つまり犬の頭の部分や、鼻や耳、しっぽなどを「犬」だと思うかもしれません。あるいはその犬の「体の色」や「毛の模様」のことだと思うかもしれないし、毛がふわふわしているという「質感」のことだと理解する可能性もあります。さらに言えば、こっちを見ているという「状態」、可愛^{かわい}さや小ささといった「性質」など、「犬」という言葉が表しているかもしれないものの「選択肢はいくらでも膨らみます」。

つまり、「大人がこの（目の前の）生き物を指さして『これは犬だよ』と言った」という限られた手がかりから、「犬」という言葉は、この生き物に形が似た生き物全般を表す」という法則性を導くには、これ以外のさまざまな選択肢——「犬」という言葉は、この一匹の生き物だけを表す名前である」とか、「犬」という言葉は、この生き物の頭の部分を表す言葉である」「犬」という言葉は、この生き物の色を表す言葉である」……などといった、数多くの「可能^②な一般化」を捨てなくてはならないわけです。

もし子供がこういった「可能な一般化」を一つ一つ検証した上で正しいものを選ぼうとしていたら、一つの言葉を覚えるのに相当な時間がかかるはずです。しかしながら、語彙爆発期の子供はこういった選択肢の膨大さにはほとんど煩わされず、驚^③異的なスピードで言葉を覚えていきます。それができる理由の一つに、子供の言語習得にさまざまなバイアス、つまり「思い込み」が働いていることが挙げられます。

たとえば、子供は初めて見る物体の名前を教わったとき、教わった名前を「その物体のみを指す名前（固有名詞）」ではなく、「その物体と形が似たものの全般を指す普通名詞」だと思ひ込むことが知られています。つまり、子供が初めて見る動物について「これは犬だよ」と教わった場合、その子は「犬」という言葉がそこにいる特定の動物だけでなく、他の似たような動物すべてにも当てはまる言葉だと思ひ込むのです。このようなバイアスは「^④事物カテゴリーバイアス」と呼ばれ、子供が「犬」「コップ」「パン」などといった普通名詞を覚えるときに正しく働きます。

また、このときにどこに目をつけて「似ている」とするかについても、形状や材質、色などといったさまざまな選択肢が考えられますが、子供は「形の類似」に目をつけることが知られています。このバイアスは「^⑤形状類似バイアス」と呼ばれています。

また別のバイアスとして、子供が未知のものについて示された名前を、物体の一部や材質などではなく、物体の全体についての呼び名だと考えるとい

うものがあります。これは「事物全体バイアス」^⑥とされています。

さらに、「相互排他性バイアス」^⑦と呼ばれているバイアスもあります。これは、子供が「一つの物体には一つの呼び名しかないと思ひ込む」というものです。年少の子供は、すでに呼び名を知っているものに対して新しい呼び名を教わると、それを「同じものを表す言葉（つまり同義語）だ」とは思わず、何か別の意味を持つのだらうと考える傾向があるそうです。その「別の意味」としては、その物体の一部や性質、あるいは上位語（「犬」に対しての「動物」、「ビル」「家」に対しての「建物」など）などが候補に挙がるようです。すでにカテゴリーの呼び名を知っているものに対して新しい呼び名が提示された場合は、それを固有名詞だと思ひ込むという実験結果も報告されています。

こういったバイアスの存在は、子供の「目のつけどころ」があらかじめ決まっていることを示唆します。つまり子供は、限られた事例から法則性を導く際に「どこに目をつけて一般化したら良いか」で迷うことがないので、言葉を素早く学ぶことができるわけです。

しかしながら、皆さんはすでにお気づきかと思いますが、先に紹介した^⑧各種のバイアスは間違いも引き起こします。ここに、「一般化」に関するもう一つの難しさ——つまり、「一般化が間違っていたときに、どうやって間違いに気づいて、どう修正するか」という問題があります。

1、事物カテゴリーバイアスは、「ポチ」「山田さん」^{やまだ}などといった固有名詞を覚えるときには間違いを引き起こします。犬を知らない子供に一匹の犬を指さして見せ、「あれはポチよ」と教えると、子供はそれを「その特定の犬につけられた名前」と思わず、その犬に似た動物全般（つまり犬全般）の呼び方だと思ってしまう。

相互排他性バイアスも、間違いにつながることがあります。言語の中には「台所」と「キッチン」、「さじ」と「スプーン」、「牛乳」と「ミルク」など、数多くの同義語が存在します。「一つの物体には一つの呼び名しかないはずだ」という思ひ込みに従っていると、同義語を習得できないことになってしまいます。

しかし、子供は成長するにつれて、自然と^⑨こういう間違いはしなくなります。言語習得の研究によれば、子供が年長になるにつれて、文脈やその他の知識を駆使して自ら「バイアス」を修正するそうです。

針生悦子^{はりゆうこ}による研究では、子供自身が「一つの物体には一つの呼び名しかない」という相互排他性バイアスを修正する過程を、^⑩次のような実験によって調べています。実験では、子供に対して人形と二つの物体を見せます。その二つの物体の片方は、子供がすでに呼び名を知っているもので、もう片方は子供が初めて見るものです。たとえば、片方は子供がすでに呼び名を知っている「りんご」、もう片方は子供が初めて見る「リップミラー」のようなペアになっています。

このような状況で、子供に対し、二つの物体のうちのどちらかを人形に渡すよう指示します。たとえば子供に「りんご」と「リップミラー」を見せた上で、「お人形はお腹が空いているから、ヘクをとってあげて」という指示を出します。ここでいう「ヘク」は、子供にとっては知らない言葉です。この実験では、子供がこの「ヘク」を、すでに知っているりんごの別名だと解釈するか、初めて見るリップミラーを表す言葉だと解釈するかを見るわけです。子供が「一つの物体には一つの呼び名しかない」というバイアスに従うならば、「ヘク」はすでに呼び名を知っているりんごではなく、呼び名を知らないリップミラーの方を指すと解釈すると予想されます。しかし、子供に対する指示では、「お人形はお腹が空いている」のように、「ヘク」が食べ物であることが示唆されています。つまり子供がこういった

2

するなら、「ヘク」をりんごのことだと考えると予想されます。

針生によれば、保育園の年少児では、「ヘク」のような知らない言葉を「初めて見るもの」（リップミラー）と結びつける傾向があったとのこと。これは、「一つの物体には一つの呼び名しかない」というバイアスを、文脈よりも優先した結果だと見なすことができます。しかし年長児になると逆に、「ヘク」を既知のもの（りんご）に結びつける傾向が見られたそうです。つまり年長児では、文脈による手がかりがある場合は、「一つの物体には一つの呼び名しかない」というバイアスよりもそちらを優先するのです。針生はこういった年少児と年長児の違いについて、単にバイアスと文脈のどちらを優先するかという違いではなく、「言葉と事物は一对一に結びついている」ということから「言葉と事物の間は必ずしも一对一に対応しない」という方向への「言語観の変化」が関わっているのではないかと述べています。

また、針生の別の研究では、日本語の呼び名と外国語の呼び名（「にんじん」と「キャロット」、「石けん」と「ソープ」など）の関係について同様の実験を行っており、ここでも年少児は「一对一」のバイアスを優先した解釈をし、年長児は「文脈」を優先した解釈をするという結果を得ています。興味深いのは年中児についての実験で、年中児の中でも「英語というものが存在することを知っている」子供は、「一对一の結びつき」にこだわらず、文脈に従って英語の呼び名を理解したということです。ここにも「外国語という、自分の母語とは違う言語が存在することを知っているかどうか」という、^{※1}メタな言語観の違いが反映されているようです。

このように、子供が多様な知識を使って自らの「一般化」を修正していくというのは非常に興味深いことですし、その過程がほぼ無意識のうちにに行われるというのも不思議なことです。

※1 メタな＝超越した。

（『ヒトの言葉 機械の言葉「人工知能と話す」以前の言語学』川添愛）

問一 傍線部①「られ」と意味・用法が同じものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 先生が話されたことはすべてメモしている。

イ 車両点検の影響で電車のダイヤが乱れる。

ウ アルバムを見て楽しかった日々が思い出される。

エ 弟は一人で朝六時に起きられると言い張っている。

オ 大好きな作家の新刊が、今週末、発売される。

問二 傍線部②「一般」の対義語を漢字で答えなさい。

問三 傍線部③「驚異的なスピードで言葉を覚えていきます」とあるが、子供が驚異的なスピードで言葉を覚えることができるのはなぜか。次の文の

に入る語句を、() 内の字数指定に従って文中より抜き出して、それぞれ答えなさい。

子供は、バイアスの存在によって、

B

(七字) から。

A

(七字) が限定されるため、何に注目して一般化すべきか、判断に

問四 傍線部④「事物カテゴリーバイアス」、⑤「形状類似バイアス」、⑥「事物全体バイアス」、⑦「相互排他性バイアス」とあるが、いずれのバイア

スにもあてはまらないものはどれか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア うさぎを初めて見た子供は、耳が長く、尾が丸く、前足は短く、後ろ足が長いという特徴のある動物はどれもがうさぎだと理解する。

イ スマートフォンを初めて見た子供が、すでに知っているタブレットとの類似点と相違点を比べて、タブレットではないと判断する。

ウ さくらんぼを知っている子供にさくらんぼとマンゴーを見せ、「ソラ」という名前の果物を選ばせると、マンゴーを「ソラ」だと判断する。

エ イルカを初めて見た子供が「それはイルカだ」と教えられると、今見ているものと似た動物はすべて「イルカ」だと理解する。

オ ショートケーキを初めて見た子供が、「ショートケーキ」はイチゴや生クリームの名前ではなく、全体についての名前であると解釈する。

問五 傍線部⑧「各種のバイアスは間違いも引き起こします」とあるが、どういうことか。それを説明した次の文の に入る語句を、（ ）内の字数指定に従って文中より抜き出して、答えなさい。

バイアスとは、 (四字) であるため、それぞれのバイアスの影響を受けることで、子供が言葉を正しく覚えられないことがあるということ。

問六 1 に入る語句として最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ つまり ウ しかしながら エ したがって オ なぜなら

問七 傍線部⑨「こういう間違い」とあるが、どのような間違いか。最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 言語を習得する際に発生した間違いがどのようなものかを認識することができないという間違い。

イ 普通名詞と固有名詞の識別ができなくなり、名詞以外の言葉は存在しないと思いつつという間違い。

ウ 言語習得時に必要な複数のバイアスを区別できず、使うべきバイアスを適切に使えなくなるという間違い。

エ 普通名詞を表す言葉を固有名詞と認識したり、同義語は存在しないという誤認識をしたりするという間違い。

オ 言語を習得するときにまず初めに覚える固有名詞と普通名詞の区別がつかなくても、問題ないと考えるという間違い。

問八 傍線部⑩「次のような実験」とあるが、この実験を通して、子供の言語習得にはどのようなことが関わっていると考えられるか。六十五字以内で答えなさい。

問九 2 に入る語句として最も適切な言葉を、文中より七字で抜き出して、答えなさい。

問十 この文章の内容と合っているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子供は語彙爆発期に言葉を覚えていく中で多様な知識を身につけ、その知識を使ってさらに言葉を習得できる。
- イ 子供は言葉を覚えるまでは時間が必要だが、言葉を覚えてしまえば言葉を正確かつ自在に運用できるようになる。
- ウ 子供は成長に伴い様々な知識を駆使するようになり、言語習得の障害となる問題を克服し、言葉を覚えていく。
- エ 子供の言語習得の過程は無意識のうちに行われるため、大人の外国語の習得とはシステムが異なるものである。
- オ 子供の言語習得では、複数のバイアスの使い方を習得することが重要で、それなしに言語の習得はありえない。

三 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

張孝張礼は兄弟なり。世間飢饉ききんの時に、八十あまりの母を養へり。木の実を拾ひに行きたれば、一人のたえ疲れたる者来りて、張礼を殺して食はんと

言へり。張礼言ふやうは、^①「われ、老いたる母を持てり。今日は、いまだ食事を参らせざりつるほどに、^②少しの暇いとまを給はれ。母に食物を参らせて、や

がて参らん。もしこの約束を違へば、^③家たがに來りて、一族までを殺し給へ」と言うて歸る。母に食事を進めて、約束のごとくに、かの者の所へ到りけり。

兄の張孝、これを聞きて、また^④跡あとより行きて、盜人に言へるやうは、「われは、張礼より肥えたるほどに、食するによかるべし。^⑤われを殺し、張礼を

扶たすけよ」と言へり。また張礼は、「われ、初めよりの約束なり」とて、死を争ひければ、かの^{※1}無道なる者も、兄弟の^{※2}孝義を感じて、ともに死を免ゆるし、

かやうの兄弟、古今まれなりとて、米二^{※3}石、^{※4}塩一駄と与へたる。これを取りて歸り、いよいよ^{※5}孝道をなせるとなり。

（『二十四孝』）

※1 無道なる者＝道理に外れた者。ここでは盜賊。

※2 孝義＝孝行と義理。

※3 石＝一石は約百五十キログラム。

※4 塩一駄＝一駄は馬一頭に負わせることができるだけの重さ。馬一頭が背負えるだけの塩。

※5 孝道＝孝行の道。

問一 傍線部①「言ふやうは」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 傍線部②「少しの暇を給はれ」と張礼が言ったのはなぜか。四十字以内で答えなさい。

問三 傍線部③「家に来りて、一族までを殺し給へ」とあるが、ここから読み取れる張礼の心情の説明として最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 家に来て、貧しく奪えるものは何もないので、自分を襲っても全く意味がないことをわからせたいと思っている。
- イ 老いた母を一人残すことになるくらいなら、いつそのこと一族ごと滅ぼされるほうがむしろよいと思っている。
- ウ 自分が信頼に値する人物であることを証明するためには、一族の命をかけることもやむをえないと思っている。
- エ 自分を襲おうとした者との約束は自分から言い出したことなので、何が起きても守り抜こうと思っている。
- オ 家には兄の張孝がいるので、自分が約束を守れなくなった場合には、兄を身代わりにすればよいと思っている。

問四 傍線部④「跡より行きて」とあるが、どういうことか。次の文の□に入る語句を、()内の字数指定に従って文中より抜き出して、それぞれ答えなさい。

A		(二字)	が	B		(二字)	のあとに、	C												(十字)	のもとへ行ったということ。
---	--	------	---	---	--	------	-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------	---------------

問五 傍線部⑤「われを殺し」とあるが、張孝がこのように言ったのはなぜか。最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 張礼より働き者なので食料を調達するのにふさわしく、張礼を家に残せると思ったから。
- イ 張礼より体格がよいので食べるのにふさわしく、張礼を助けることができると思ったから。
- ウ 張礼より太っているため、自分が盗賊に向いていると思い、仲間にしてもらおうと思ったから。
- エ 飢饉のため家族を養うことが難しく、家族のためにも自分が盗賊になるのがよいと思ったから。
- オ 食料がないので母の世話は張礼に任せ、自分がいなくなるほうが家族のためになると思ったから。

問六 この話の内容として最も適切なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 飢饉のため人々の心はすさんでいたが、張孝と張礼の二人の母は二人を心優しい者に育てたため、賢母として評価された。
- イ 張礼が約束を守ろうとしていた者は、張孝と張礼、盗賊の会話を耳にして、二人の母親のために孝行を行おうと決意した。
- ウ 老いた母を思いやり、お互いをかばい合う兄弟の孝義の心に感動した盗賊の話聞いた人々は張孝と張礼を褒めたたえた。
- エ 命を惜しまない兄弟の姿を見て、盗賊は母親を守ろうとする孝行心を高く評価し、二人がいつそう孝行できるようにした。
- オ 張孝と張礼の互いを思いやる心の美しさに心を動かされた盗賊は二人の命を救うことにし、そのうえ二人に褒美^{ほうび}も与えた。

受験番号	氏名
------	----

一

問一	①	委	②	裁	③	連	④	業績	⑤	精密
----	---	---	---	---	---	---	---	----	---	----

2点×5

問二	①	いど	②	とどこお	③	ほうこう	④	ふんむ	⑤	てっぱい
----	---	----	---	------	---	------	---	-----	---	------

2点×5

問三	①	虫	②	粉	③	骨
----	---	---	---	---	---	---

2点×3

問四	①	ウ	②	ク
----	---	---	---	---

2点×2

問五	エ
----	---

2点

二

問一	オ
----	---

3点

問二	特殊
----	----

3点

問三	A	目のつけどころ	B	迷うことがない
----	---	---------	---	---------

6点

問四	イ
----	---

4点

問五	思い込み
----	------

4点

問六	ア
----	---

3点

問七	エ
----	---

4点

問八	言葉と事物は一對一で結びついているといふ考えへの言語	考えから、言葉と事物の間は限らないといふ考えへの言	で対応するとは限らないといふ考えへの言	観の変化。
----	----------------------------	---------------------------	---------------------	-------

8点

問九	「文脈」を優先
----	---------

3点

問十	ウ
----	---

4点

三

問一	いふようは
----	-------

3点

問二	今日はまだ母親に食事を与えていないので、	食事を食べさせなければならぬから。
----	----------------------	-------------------

6点

問三	エ
----	---

4点

問四	A	張孝	B	張礼	C	一人のたえ疲れたる者
----	---	----	---	----	---	------------

5点

問五	イ
----	---

4点

問六	オ
----	---

4点